

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立北中学校

教育目標			夢を持ち意欲的に生きる生徒の育成 ― 自分に自信を 学校に誇りを ―									
重点目標			(1)授業改善を常時行い、「授業がわかりやすい」と答える生徒を増加させる。 (2)魅力ある学校づくりに努め、不登校生0をめざす。 (3)教育相談を充実させ、何でも言える関係づくりに努める。 (4)生徒が主体的かつ積極的に取り組める活動を計画・実施する。 (5)「報・連・相」の重要性を全職員が認識し、風通しの良い職場づくりを行う。									
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	生徒	保護者	職員	
学力の向上	1	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的基本的な知識・技能を習得する。 ・主体的に学習する態度を育成する。	・各教科でサクラノートの形式を利用する。 ・各教室の黒板にサクラタイムで行う内容を掲示する。	・サクラノートの作成を各教科で行う。 ・サクラノートの活用等に関する授業アンケートで肯定的回答を78％以上にする。 ・生徒・保護者・教職員のアンケートで、対象項目の肯定的回答を78％以上にする。	B 〔成果〕 ・生徒・保護者アンケートとともに、サクラノートの活用に関しては目標値(78％)を達成することができた。 〔課題〕 ・予習、復習、宿題などの家庭学習の部分については、目標値を6ポイント下回った。	・ノートを活用した復習、宿題の設定を行う。(4月～) ・週末課題を継続的・計画的に出題し、家庭学習につなげる。(通年)	学習発表会等で掲示されているSAKURAノートには目を見張るものがある。 さらに質の高い家庭学習につながるよう努めてほしい。	⑥⑳	⑥⑲	④⑩	
	2		・教材研究を行い、指導方法の工夫や改善に取り組む。	・本時のめあての提示とふり返りを徹底し、授業のねらいを明確にする。 ・分かる楽しさのある授業づくりに努め、基礎基本の定着を図る。 ・アクティブラーニングを取り入れた授業を実践する。	・アンケートで「先生は教え方にいろいろと工夫している」と肯定的に回答する生徒を80％以上にする。 ・「授業中、自分の質問や意見を出しやすい」と肯定的に回答する生徒を70％以上にする。	B 〔成果〕 ・めあてとふり返りを徹底した授業実践ができている。 ・「授業がわかりやすく楽しい」と回答した生徒は77％である。 ・「教え方に工夫している」と回答した生徒は90％である。 〔課題〕 ・授業がわかりやすいと答えた生徒が目標値80％に達成することができなかった。 ・教師と生徒の評価に差がある。	・ふり返りシートを活用して生徒の理解度を把握するとともに、授業改善を推進する。(通年) ・学力、体力等の調査結果を分析し、対策を考え実践する。(通年) ・教科代表者会・教科部会を定期的に開催する。(月1回)	80％達成まで今一步であるが、「教え方に工夫がある」と回答した生徒が90％である。来年度はぜひ、「授業が分かりやすく楽しい」と回答する生徒が80％以上達成するよう、ふり返りシートを最大限に活用することを望む。	③⑤⑬⑯⑳	⑭	⑤⑥⑦⑧	
	3	思考力・判断力・表現力の育成	・言語活動の充実を図り、より高いコミュニケーション能力を育む。 ・NIEに取り組むことで視野を広げ、自分の考えを表現する力を養う。	・ブックトークやビブリオバトルで本の紹介を行い、読書に対する意欲を高める。 ・年度初めに図書室を利用した授業を行う。 ・NIEの活用により、思考力、判断力、表現力の育成を図る。	・各クラスの読書量調査で月平均5冊以上にする。 ・貸出し冊数を年間5000冊以上にする。 ・「NIEに積極的に取り組み、自分の考えや意見を書いている」と肯定的に回答する生徒を70％以上にする。	B 〔成果〕 ・3学年ともNIEに積極的に取り組む割合が80％を超えた。 ・朝読や図書室利用で図書に親しむ生徒の割合が全学年70％を超えた。 ・貸出冊数は8000冊を超えた。 〔課題〕 ・図書室の利用について、より一層の周知が必要である。	・NIEは全教師が計画的継続的に作成する。(通年) ・NIEの実施方法について見直し、検討を行う。(通年) ・読書量調査を定期的に行う。(5月・11月・2月) ・図書室の活用状況や移動図書館の様子をHP等で周知する。(随時)	NIE教育をさらに推進して、思考力・判断力・表現力を養ってほしい。 本がより身近な存在となる取り組みを期待する。	④⑳	⑤	⑨⑳	
	4	特別支援教育の推進と充実	・支援体制を整える。 ・特別支援教育の内容を充実する。	・全学級、全教科において個別の指導計画に沿った支援ができる体制を整える。 ・特別支援教育についての研修の場をつくる。 ・個別の指導計画を作成し、教育的ニーズに応じた指導を行う。	・外部の相談機関と連携し、支援についての研修を行い、生徒のニーズに応じた支援をする。 ・支援学級担任、交流学級担任、教科担任の連携をより密に行い、情報交換の場をつくる。 ・生徒一人ひとりの個別の指導計画を充実させ、全教職員が情報を共有する。	A 〔成果〕 ・特別支援教育推進委員会を定期的に開催することができた。(月1回) ・年度当初に一人ひとりの生徒について情報交換することができた。 ・外部機関との連携のもと、個別の指導計画を作成することができた。 〔課題〕 ・関係機関との連携をさらに強める。	・巡回相談など関係機関と連携を行う。(通年) ・個別の指導計画の内容を定期的に見直す。(学期に1回) ・特別教育推進委員会を定期的に開催する。(週1回) ・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制を強化する。	今後も特別支援教育の取り組みを全校挙げての推進を望む。 多様な生徒達に対応できる学校全体での支援体制を期待する。			㉑㉒㉓	
	5	社会への対応力をはぐくむ教育の推進	・系統的な進路指導を行う。 (1年) 自己を見つめ、適性を知る。 (2年) 職業体験を通じて将来を考える。 (3年) 自己実現のために適切な進路を選択する。	・中学3年間を見据えた進路指導を行う。 (1年) 社会人としてのルールやマナーを学ばせる。 (2年) トライやる・ウィークを通し、働くことの大切さを知り、将来の職業を見据えた進路について考えさせる。 (3年) オープンハイスクールなどを利用して、本人の興味・関心や適性に基づいた進路選択をさせる。	・キャリア学習ノートやプリントを活用し、自分の将来について考えさせる。 ・進路に関する情報を計画的に提供する。	B 〔成果〕 ・キャリア学習ノートやプリントを活用することにより、適切に進路情報を提供することができた。 〔課題〕 ・キャリア学習ノートの活用について、さらに効果的な使い方を検討していく。	・キャリア学習ノートの年間指導計画を作成する。 (4月～)	地域・社会とのつながりの中で自身の夢や特性を生かせることを考えさせる指導が大切である。		⑪	⑮⑰	⑯

豊かな心・健やかな体	6	問題行動への対応（生徒指導）	・組織的な生徒指導を行う。	・問題行動については全教職員で共通理解を図り対応する。 ・生徒指導委員会を定期的に開催する。 ・巡回記録用紙の内容は、担任及び全教職員で共有する。 ・教育相談やアンケート等で情報収集を行い、問題行動等の未然防止に努める。	・生徒指導委員会を開催し、情報交換を行う。（週1回） ・生徒・保護者・教職員のアンケートにおいて、対象項目の肯定的回答を75％以上にする。	B	〔成果〕 ・生徒指導委員会を実施することができた。（週1回） 〔課題〕 ・教職員や保護者向けアンケートにおいては達成値を達成することができたが、生徒については達成することができなかった。	・生徒指導委員会を実施する。（週1回） ・警察やこどもセンターなど関係機関と連携を図る。	毎週生徒指導委員会を実施し、情報共有できたことは成果である。そのうえで、関係機関とも連携をとりながら問題行動の事前防止に努めてほしい。	⑨	⑦⑧	⑫③⑧
	7	不登校への対応	・教育相談やQUを活用し、生徒理解をすすめる。 ・家庭との連携を密にとり、不登校生徒数の減少を目指す。	・教育相談やQUの結果を教師間で共有し、個々の生徒に対し効果的な対応を行う。 ・学校教育活動の中で生徒の変化を見逃すことなく初期対応に努め、家庭との連携を図る。 ・家庭環境を考慮し、関係機関、SC、SSWとの連携を図る。	・生徒アンケートの「先生は相談にのってくれる」の肯定的回答を全学年80％以上にする。 ・生徒アンケートの「学校で自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」の肯定的回答を全学年80％以上にする。 ・個々の生徒の登校日数や状況等を前日記録する。	B	〔成果〕 ・教育相談委員会を定期的に実施することができた。 ・ケース会議をSC、SSWと連携し、実施することができた。（4回） ・個々の生徒の登校日数や状況等を毎日記録できた。 〔課題〕 ・一人ひとりの生徒について継続的に家庭訪問等を行い情報収集に努める。	・家庭訪問を行い保護者と連携を密にする。（通年） ・教育相談委員会を実施する。（週1回）	不登校の原因が多様化している現状に合わせたきめ細やかな対応が望まれる。	⑦⑩	④⑬	⑬⑭⑮③⑦
	8	健康教育	・規則正しい生活習慣や食習慣を身につけ、健康管理能力を育成する。	・欠席調査を適切に行うとともに学級指導や保健だより等で健康に関する意識を高める。 ・教職員間で共通理解を図るとともに必要に応じて保護者との連携も密に図る。	・欠席理由が不明な生徒については、学年間で共通理解を図り、迅速に保護者に連絡する等の対応を行う。 ・学校衛生管理などを適切に行い、保体委員会の活動を充実させる。	B	〔成果〕 ・前年度に引き続き生徒アンケートの肯定的回答は80.8％となり80％以上を達成することはできた。 〔課題〕 ・教職員アンケートの肯定的回答は前年度より上昇した。 ・生徒アンケートの肯定的回答については教師アンケートに比べ、意識の差が見られた。	・健康教育に関する情報を保健だよりやHP等でタイムリーに発信する。（随時） ・啓発ポスターづくりを行うなど保体委員会の取り組みを充実させる。（4月～）	健康教育への啓発をさらに行う必要がある。	⑭	⑪	⑲⑩②
				・年間を通しての給食指導が初めての経験となるため、教職員が給食に関する研修をおこない、安全に給食が実施されるようシステムづくりを行う。	・給食委員会の活動を充実させる。 ・時間や配膳ルール、食事のマナーを守り、安全に給食を食べることができる。	B	〔成果〕 ・給食の配膳・ルールが定着し時間内に喫食することができた。 ・アレルギー対策委員会を定期的に開催することができた。（随時） 〔課題〕 ・給食を活用した食育の取り組みを行っていく必要がある。	・給食委員会で食育の取り組みを実施する。（通年）	食育を進めるために家庭と連携をとり行うことが望まれる。	⑭⑮	⑪⑫	⑲⑩②
	9		・安全指導の工夫改善をする。	・交通マナーとルールを守る意識を高めるため外部講師を招聘し講習会等を年1回以上行う。 ・登下校指導を定期的に行う。	・交通マナーとルールを守る意識を高める。 ・生徒アンケート「学校で交通マナーを教えてもらっている」の肯定的評価を80％以上にする。	B	〔成果〕 ・生徒アンケート「学校で交通マナーを教えてもらっている」において、目標値を達成することができた。 〔課題〕 ・一部自転車通学を認めていることから、継続的に自転車通学指導を行う必要がある。	・自転車通学生への指導をきめ細かく行う。（4月・9月・1月） ・各クラスに交通ルールやマナーに関するポスターを掲示するなど生徒の安全意識を高める。 ・自転車通学生徒への指導だけでなく一般生徒への指導も継続して行う。（学期1回）	自転車通学生だけでなく、全校生徒への定期的な交通指導を継続して行ってほしい。	⑬	⑩	⑱
	10	安全教育	・安全・安心の場を創造する。	・朝礼や終礼、集会などで注意喚起を行う。 ・防災教育の充実を図る。 ・定期的に防災訓練を行う。	・各アンケートの項目での肯定的評価が80％以上にする。 ・防災マニュアルを局員会議や研修会で周知する。 ・Jアラートを活用するなど工夫した避難訓練を行う。	B	〔成果〕 ・アンケートの項目での肯定的回答は80％以上であった。 〔課題〕 ・教師用アンケートの「緊急時の対応について、生徒や保護者に行動マニュアルを示している」の項目のみ達成できなかった。 ・緊急時の行動マニュアルを生徒・保護者に周知させる。	・避難経路やハザードマップなど教室に掲示し、生徒の安全意識を高める。（4月～） ・学校だよりやHPを通して学校安全の取り組み等を保護者や地域へ周知する。（随時）	今年度は非常に自然災害の多い年でもあったので、よりいっそうの防災への意識を向上させ、減災へつなげるような教育を望む。	⑦⑧⑫	⑨⑩	⑰⑱⑧

開かれ信頼される学校園	11	豊かな心を育む教育の推進	・健全な心の育成をする。	・「ココロを育む授業」を行う。 （2学期） （1年）「冒険教育」 （2年） 「リレーションを深める集団づくり」 （3年） 「心の健康教育」を実施する。	・生徒アンケートと教職員アンケートの該当する項目で肯定的評価を80％以上にする。	A	〔成果〕 ・生徒や教職員アンケートにおいて共に肯定的回答は80％以上を達成することができた。 ・道徳の教科化に向けた研修会を行うことができた。 （3回） 〔課題〕 ・年間指導計画に基づき進めることができなかった。	・年度当初に年間計画を立て系統立てた指導を行う。 ・外部講師を招聘した研修会を実施する。（年3回）	心を育む道徳教育をさらに深めた教育実践を行ってほしい。	⑦⑰		③⑩
	12	学校情報の発信	・学校（授業）を公開する。	・学校通信やHP等で発信する。 ・土曜授業、オープンスクールなど定期的に行う。 ・PTAと協力して積極的にサクラメールを活用する。	・学校だより、学年通信などで生徒の活動時の写真や感想文などを毎月掲載する。 ・HPの閲覧者数の確認ができるよう定期的にカウンターを記録する。（目標値5万件） ・授業参観およびオープンスクールの参加者数を増やす。		〔成果〕 ・学校だより、学年通信を毎月（定期的に）発信できた。 ・HPをほぼ毎日更新することができた。 （閲覧者数約9万件） ・1学期に比べ2、3学期と参加者数が増えた。 〔課題〕 ・教育活動が多岐にわたるため学校情報をすべて発信するには至らなかった。	・継続的に1日のできごとをHP上にアップし、情報発信を行う。（4月～）（目標閲覧者数 15万件）	ほぼ毎日HPを更新し、閲覧者数が9万件を超えたことは成果である。ぜひ、これからも負担のない範囲で学校情報を発信してほしい。		⑮	③① ③② ③③
	13	施設・設備の管理	・施設・設備の管理や清掃活動の充実させる。	・定期的に安全点検を行い、適切に修理・修繕を行う。 ・行事前や学期に1回大掃除を行う。 ・整美委員会の取り組みを充実させる。 ・PTAと連携を図りクリーンアップ活動を実施する。	・安全点検を行う。（月1回） ・安全点検の結果をまとめ危険箇所を把握する。 ・整美委員会で掃除道具の点検を行い、壊れているものを修理し、丁寧に扱うよう指導を徹底する。		〔成果〕 ・毎月安全点検を行った結果、適切に修理・修繕することができた。（月1回） 〔課題〕 ・校舎の老朽化に伴いすべてを修繕することができなかった。	・日常点検を行い、危険箇所については、迅速に修理を行う。（通年） ・関係機関と連携を図り、迅速に対応する。（通年）	校内だけでの対応には限界があるので、OBや地域の力を借りる。設備の老朽化は目立つが、それを工夫して補い、生徒が活動しやすい場となっている。	⑱⑲	⑨	③⑤ ③⑥

学校関係者評価総括
年度当初に掲げられたテーマについては、ほぼ達成されている様子であるが、評価にとどまっているものが多いので残念である。 次年度に向けて成果と課題を分析し、改善策を確実に実施していけるよう、家庭・地域・関係機関を巻き込んでいく必要がある。 また、学校運営協議会等での熟議を通して何が必要であるかを具体的かつ明確にし、学校改善に取り組んでほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
○全国学習状況調査の結果、本校はどの教科も全国平均を上回ってはいえるものの満足できる結果とは言えない。そこで、授業改善を第一の目標とし、授業の流れを「めあての提示」→「発問の工夫」→「ふり返り」を行い授業改善に取り組んできた。さらに、授業を生徒主体のものとするために、ICTや生徒の意見や考え方を可視化する「思考ツール」を積極的に活用する中で、生徒の学力向上を目指す。 また、言語活動を充実させるためNIE教育をさらに推進する。今年度は全校生徒同じ記事と問題で統一したが、来年度は各学年ごとの記事と問題にすることを検討し、決定した。さらに「視写」を導入し、言語活動の充実に努めていく。 ○学力の高い生徒はタイムマネジメントがしっかりとできていると言われていることから、生徒に時間を意識させるため北中独自のシステム手帳を導入し、学力向上プラン施策のひとつとする。 また、教職員にも同じ手帳をもたせて、勤務時間の適正化を図る。 さらに、気持ちにゆとりを持って生徒と向き合う時間の確保ために、来年度から教育相談週間から教育相談月間とし、気になる生徒には複数回対応できる時間を設ける。 ○次年度の学校教育目標設定のためすべての教育活動を一から見直し、また、PTA会長・CS会長・各学年主任・教頭とともに「北中学校SWOT分析」を行い、全教職員で一丸となって取り組めるよう組織化・可視化をした。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った